活動報告1

自然エネルギーを考える会／岩見沢市

報告者　奥山寿久さん

平成 23 年 3 月の東日本大震災で、東京電力福島第一原発が大事故を起こしました。日本国内の原発が全部停止してエネルギー問題が切実な問題になり、私たちにも何かできることがないだろうかと有志が集まって、平成 25 年 3 月、この「考える会」を設立しました。現在は正会員 31 人、賛助会員 4 人、いずれも岩見沢市と近郊の一般市民で構成され、会費と寄付金を財源に運営しています。

当初は自然エネルギーの活用・推進を目指し、オフグリッド太陽光発電を使って、勉強会・ワークショップなどを開催してきました。もうひとつ、環境保全を目指して里山整備活動を行なっており、その一部を今回の交付金で実施しました。

私たちのフィールド

活動場所は、岩見沢市志文地区、同市栗沢町上幌地区、同市宮村地区の 3 カ所です。いすれも岩見沢市中心部から車で 15 ～ 20 分のところに位置しています。

志文地区は、北海道が北海道自然環境等保全条例に基づいて「学術自然保護地区」に指定している原生林です。大径木が多く見られるほか、アオサギの集団営巣が確認され、岩見沢出身の小説家・辻村もと子の生家が資料館として保存されています。

上幌地区は 4.9 ヘクタールのうち、 3 ヘクタールで活動しています。

宮村地区は草木染めの資源が豊富で、こちらからいろんなものをいただいています。

活動のようすと成果

月 2 回の定例作業日と、そのほか必要に応じて作業日を設け、通年では週に 2 ～ 3 回程度、 4 ～ 5 人で作

業しています。

志文地区の森の真ん中に観察道があるのですが、荒廃していたため、修復を行ないました。アオサギをはじめとする野鳥観察、小学生たちの見学授業などで使われますので、危険のないように整備しました。特定外来種アライグマの捕獲作業、また専門講師をお招きしての学習会を開きました。空知総合振興局森林室のみなさんや、各地の森林サポーターさんたちがたいへん好意的に協力や助言をくださいました。立ち枯れている中にも巨木が多く、人力作業では撤去するのも難しいので、地元の森林サポーターさんが経営する会社が重機を出して手伝ってくれました。

上幌地区の森では、作業道の整備と周辺の下草刈り、外来植物の駆除、植林、間伐材を利用してキノコを育てるホダ木づくりなどを実施しました。この森には人をたくさん呼びたいと考えていて、子どもを対象にした自然体験学習会を開いたほか、グランドスケープデザイナーを講師に招いて将来計画を討議したりしました。

宮村地区でも同様の活動を行なっています。この森では特に資源利用を重視しています。ナメコ、シイタケを収獲したほか、草木染め体験会を開きました。参加者には、染料の材料となるクサギ（シソ科）の実生を森で集めるところから始め、製品作りまで体験してもらい、好評でした。

今後の課題

道内の多くの団体がこの交付金を受けて活動していますが、こうした報告会を除けば、お互いに情報交換できる場がほとんどありません。森林作業の安全講習会など、複数の団体が集まればより開きやすいでしょうし、主催イベントに相互に参加したりすれば情報交換も活発化すると思います。私たちは栗山町のグループとは交流があります。

交付金は３年間継続しますが、交付期間が終了した後、活動を続けるための資金調達も課題です。私たちは残りあと２年の間にそれをクリアする必要があります。また交付金で資器材を購入する場合には、補助率が 1/2 ないし 1/3 ですから、高価な製品を導入するにはそれなりの負担は避けられません。団体の運営を強化して経済的な余裕を作り出す必要性も感じています。

私たちのこれから

私たちの会を訪ねて、全国からお客さんがお越しになるたび、必ず山にお連れしますが、口々に自然環境の素晴らしさをおほめいただきます。地元の私たちはこの風景に慣れてしまって、お客さんたちに改めて気づかされることも多いのです。身近にあると「当たり前」と思ってしまいがちですが、それを「素晴らしい」とほめられると、ふと我に返って新鮮な気持ちがよみがえります。多くの人に私たちの山を訪ねてきてもらい、体験を通じて「自然っていいネ」と感じてもらえたら、私たちも「それを守っていきたい」という気持ちになります。

五感を通じて味わった感動や体験を、人は忘れません。それがやがて意識変化につながり、自然を愛する気持ち、人を愛する気持ちにつながっていくと思います。その輪が世界中に広がれば、究極の平和にもつながるでしょう。この交付金制度に助けられて、そんな大きな希望を抱きながら、できる活動を少しずつ継続していきたいと思います。